

令和7年6月近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和7年6月24日（火） 9時30分～11時00分

2. 開催場所 近江八幡市水道事業所3階 AB会議室

3. 出席委員	教育長	安田 全男
	教育長職務代理者	重森 恵津子
	委員	西田 佳成
	委員	大更 秀尚
	委員	圓山 淳子

4. 事務局出席者

教育部長	太田 明文
教育総務課長	澤 千央
教育部次長兼学校教育課長	富江 康子
教育研究所長	楠本 茂樹
教育部次長兼学校給食センター長	奥村 信満
近江八幡図書館長	奥村 恭代
安土図書館長	泉野 高儀
スポーツ課長	村田 崇
国スポ・障スポ推進課長	伊崎 裕二
子ども健康部幼児課長	土井 忠史
生涯学習課主任主事	岡地 剛裕
教育総務課長補佐	竹浪 雄大
教育総務課主幹	岡田 清久
教育総務課副主幹	但田 祐子

5. 会議を傍聴した者 0人

6. 会議次第

【議 案】

- 議第18号 近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会設置要綱の制定について
- 議第19号 近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会各プロジェクト部会要領の制定について
- 議第20号 近江八幡市スポーツ推進審議会委員の委嘱につき承認を求めることについて

【協議事項】

- 図書館新システムの導入について

【報告事項】

- 6月市議会定例会における質問に対する回答等について
- データサイエンス入門クラブの創設について
- 「令和6年度図書館の概要」について
- 桐原体育館の休止延長及び劣化度等調査にかかる利用者への通知について

【その他】

- 第1回総合教育会議の振り返り意見交換

7. 議事の経過

(1) 開会（日程確認）

- ・教育長が6月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認
- ・日程について 承認

(2) 会議録の承認

- 5月定例会の会議録 承認

(3) 教育長挨拶及び報告

6月議会においては大変多くの質問をいただいた。委員の皆様の中にもライブやYouTubeを視聴された方がおられると思うが、特にこの場でご報告しておきたいことが1つある。それは、学校にいわゆるビフォアスクール、アフタースクールを実施するべきではないかというご質問であり、「小1の壁」という課題を提起してのご質問であった。しかし、この「小1の壁」のご質問の真意は、いわゆる我々が捉えている「小1ギャップ」ではなく、小1のお

子さんを持つに至られた「保護者の就労の壁」であり、いわゆる保護者目線からの、子どもの居場所の課題に対するご質問であった。我々としては、子ども目線から、子どもの居場所について議論し、それを政策に反映する必要があると考えており、基本的な立ち位置が全く異なる質問と答弁になっている。仮に朝の 7 時くらいから学校へ行く子ども、そして授業が終わって夕方 5 時くらいまで学校にいる子どものことを考えると、おそらく 10 時間に及ぶ学校での滞在となり、精神的にも安らぐことがなく、緊張の連続ということになると思う。本来家庭で過ごす豊かな環境は学校の空き教室で賄い切れるものではなく、加えて、家庭教育というものについても不足するものがあるのではないかと考える。学校から帰って友達と遊びに行くことも難しく、地域と出会う時間も少なくなり、いわゆる地域教育から受ける学びも不足してしまうのではないかと思うのだが、そうした事は、大人目線からはあまり気かけられていない。とりあえず、大人が働いている間、安心して子どもを預けることができる場所が欲しいという論理で、教室が空いているのであれば、本市においても、学校においてビフォアスクール、アフタースクールをやるべきではないかと、そういうご質問だったと思う。

教育委員会としては、法整備がしっかりし、国もしっかり予算をつけて、施設も環境も整え、加えて家庭教育の不足分、地域教育の不足分をある程度を補うことができる、しっかりとしたカリキュラムを用意してこそ、初めてそういうものが可能になると答弁させていただいた。親の就労の問題も、子どもの居場所の問題も、両方解決すべき日本国の大きな課題であり、その両方の課題を解決することが必要であるという立場である。したがって、しっかりと法律を作って国の政策に反映し、国の予算もしっかりとつけた上で、いわゆる認定児童園のようなものを本市においてつくる事を検討すべきであると私は考えている。省庁にまたがる法律をつくる等、荒唐無稽であるという受け止めをされる方もおられるかもしれないが、超党派の議員連盟を組んでその必要性を訴えていけば議員立法として成立する可能性は十分にあり、私個人としては本気になって、立法を目指していきたいと思っている。そうしたことを踏まえながら、本市の教育のあり方もしっかりと議論すべきであると思っているので、また委員の皆様のお考えもお聞かせいただきたい。

もう一つ報告として、「伝えよう！熱い思い 2025」という取組があり、市立中学校 4 校と近江兄弟社中学校の生徒が参加し、作文発表を行う機会があった。私も最後まで傾聴させていただいたが、教育委員の皆様にもご参加いただき感謝を申し上げる。

私としては、この取組は大変良いものだと思改めて実感した。本市においては、全ての生徒、児童、幼児に生き抜く力を醸成していきたいと思っているが、生き抜く力とは課題発見能力であり、課題発見能力は対話によってのみ育成されると私は信じている。今回は、それぞれの作文を作った生徒が、聴

衆に対し自分の言葉で発表をしていた。発表者と会場の中に意見交換は無かったが、生徒は自分が感じた魂の想いを文字にして、それを自分の言葉で聴衆へ語りかけた。聞いておられる聴衆の方々も魂が揺さぶられ、そこに魂と魂の対話が成立していたのではないかと思います。こうしたことを積み上げていくことにより、いわゆる感性や直感力が育ち、課題発見能力が研ぎ澄まされ、ひいては生き抜く力に結びついていく、そういう催しであったと思う。

来年に向けては、できれば発表者と会場が意見交換出来るような、そうした場も考えていけたらと思っている。そのことによって、さらに対話が重り、生き抜く力の醸成につながるのではないかと感じた。以上をもって、教育長の報告とさせていただきます。

(4) 議事

◆議第18号 近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会設置要綱の制定について

【事務局説明】…生涯学習課

【質問等】

○圓山委員

第4条「協議会は、委員15人以内をもって組織する」というところで、「行政関係者」とはどのような人を指すのか。

○生涯学習課

福祉部局等との連携を考えており、そうした部局の行政職員を想定している。

○圓山委員

就労を見据えた施設ということだが、就労に関して提案できる部署の職員にも入ってもらえるのか。

○生涯学習課

就労に関して業務を行っている商工振興課や商工会議所等の外部団体にも声をかけ、取組に入ってもらいたいと考えている。

○大更委員

協議会の母体は旧人権センターに設置されるのか、生涯学習課に設置されるのか。

○生涯学習課

主な活動場所としては、旧人権センターの施設を改修し、そこを活動拠点とさせていただく。

○大更委員

起業してやってみたいという若者と、起業や就労まで進めない子どもたち、まだモヤモヤしていて、自分の生活や将来について不安を抱えている子どもがうまく繋がることのできる場所があればいいと思う。というのも、「よしぶえ」のときに、大きい子どもも小さい子どももお互いに関わり合いながら取組を進めていった経緯がある。今回はもう少し年齢が上の子どもたちになると思うが、人と人が繋がれるスペースも含めてできればいいなと思う。

○生涯学習課

今おっしゃっていただいたように、マナビィで支援をされている「にこまるルーム」や「あすくる」、それから生涯学習課内にある「子ども・若者相談窓口」が新しく改修させていただく施設に入り、3機関が連携して例えば料理教室を開催するようなことを考えている。にこまるルームの子どもたち、それから少し年齢の高いあすくるの子どもたちが連携し、はじめはそれぞれの支援員がつきながら、回数を重ねていくうちに上の世代の子どもたちが下の世代の子どもたちを支援していくような活動を考えている。起業だけにとらわれず、そうした小さい活動を通して、支援を進めていきたいと考えている。

【採 決】

近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会設置要綱の制定について

可決

◆議第19号 近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会各プロジェクト部会要領の制定について

【事務局説明】…生涯学習課

【質問等】

○教育長

先程の議第18号とこの要領との関係について、それからプロジェクト部会がどういうものかについて、説明をお願いしたい。

○生涯学習課

要領については、議第 18 号の要綱第 8 条に「プロジェクト部会を置く」という形で記載しており、中学校でいう部活動のようなものも想定している。音楽や芸術など、いろんな分野において興味のある子どもさんがおられた際に、興味を持った子どもさんと支援員が連携し、活動を通して子どもの自己肯定感を高められるような活動していきたいと考えており、それに基づいて要領を定めている。

○大更委員

要領に「起業支援等の推進について調査・検討を行う」と書いてあるが、具体的に、まずこれをして、次にこれをするというのは、この協議会で話し合って決めていくということか。

○生涯学習課

協議会の場で話し合っていくことはもちろんだが、先ほども例に挙げたが、料理が好きな子どもさんがおられた際に、専門の講師、支援員を通じて料理の活動を進めていくことで自己肯定感を身に付けてもらう。施設にもレシピを持った子ども・若者がおり、そうした子どもたちが専門分野において能力をつけ、お店を出してみたいということになった際には、改修施設の増築部分にアンテナショップのようなスペースを用意する。そこで一般のお客様相手に仮に限定 10 食程度のようなかたちで、実際にお金をやり取りしたり、支援員もつきながら学んでいく。その中で、例えばイラストが好きな子どもが部活動を立ち上げた際には、商品を買ったりパッケージを作る時に連携する等、部活動同士が連携し、一つのプロジェクトを立ち上げて活動していくことを想定している。

○大更委員

部活動を通じてということは、例えばこれから設置されるデータサイエンス入門クラブやまちづくりクラブ等も関わってくるということか。

○生涯学習課

そのとおりである。先ほども申し上げたとおり、プロデュース協議会に商工会議所の方にも入っていただく予定であり、商工会議所が毎年企画されている八幡フェスタやクリスマス会に、子どもたちが協力してブースを出すということも考えている。

○教育長

子どもたちの興味の対象は様々であるが、今わかっているのは料理、イラスト、音楽等である。他にもたくさんあると思うが、子どもたちがやりたい

と思っている部活動をどんどん立ち上げて行く。そうして、例えば料理クラブを立ち上げて、何かファストフードを考案したとして、これをアンテナショップで売るには、宣伝も必要になるし、商業ソングもあればいいし、パッケージも良いものを作りたいということで、様々なクラブが共同してアンテナショップで売り出すというプロジェクトを立ち上げる。そこで仮に成功体験をして、この人たちがアンテナショップでなく実際に店を構えて売ってみたいと思ったとしたら、その次は、資金をどう調達したらいいのか等の課題が見えてくる。これを商工会議所や、そういうところにサポートしてもらえるような仕組みづくりをしていきたい。例えばまちづくりに関わりたいという人がいれば、これも商工会議所でもまちづくりをやっているので交流を行い、例えばクリスマスマーケットをやりたいというのであれば、そういうものを一回やってみるとか。

それから今、青年経営者会の方から建設機械等の大きな機械や塗装に興味を持っている子どもが多いと聞いている。そういう子どもたちが建設・機械クラブを立ち上げた際には、青年経営者会が教えに行くし、実際に機械に乗りたいということであれば、しっかり環境を整えた上で乗ってもらうこともできるというような支援の声もいただいている。子どもたちが興味を持って、やりたいということについては、どんどんクラブを立ち上げていきたいと考えている。

○大更委員

子どもたちがやってみたいと思うことを吸い上げる機関が、言ってみれば部活動であり、クラブであるということかと思うが、子どもたちの思いを吸い上げるというか、子どもたちを引き上げてあげるための部分がとても大事だと思う。

○教育長

その根幹となるのが、先ほど議決いただいたプロデュース協議会であり、協議会の関係者に集まっていただく場で状況報告を行い、こういうクラブを立ち上げていく予定だのご意見はありますか、というかたちで諮っていく。そうした手続きを踏んだ上で実際の運営は、本市が委託契約している総合プロデューサーの魚見さんという方に進めていただこうと思っている。これに対する事務局というものも、しっかり作っていこうと思っている。

○大更委員

対象は中学生であったり、高校生であったり、それはあまり関係ないということか。

○教育長

それこそ対象は、幼児から 39 歳までという幅の中でつながってくる人で、それぞれの活動においてこんなことをやりたいという思いを示しておられる人である。例えば料理に興味をもつ小学生、中学生の子どもさんがいるとして、いきなり一緒に活動するのは難しいので、個別に指導しながら垣根をとりはらっていき、異年齢で同じ料理というものに取り組めるように体験を積んでもらう。それも 1 つの自己肯定感の拡大になるだろうし、そのための部会を作りたいと思っている。

○大更委員

この勉強をしたいからこの高校に行きたい、このスポーツをしたいからこの高校に行きたいという子どもも当然いると思う。普通に勉強して高校に行きたいと一生懸命やっている子どもがいたとして、そういう子どもはこのクラブに入らなくてもいいのか。

○教育長

学校の授業に復帰していく子どももいるだろうし、復帰できず、こうしたクラブにも入れない子どもたちも依然としているかもしれないが、その場合は、メタバースのサークル活動も用意したいと考えている。こうした場に出てくることができなくても、家にいながらメタバースで活動に参加できるようなことも立ち上げていきたいと思っている。

○重森委員

プロジェクト部会がどこに関わってくるのか、どの位置になるのか教えていただきたい。

○教育長

最初はこれらの基礎的な部活動、料理、イラスト、音楽等の部活動それぞれにプロジェクト部会があり、部会長と副部会長を置くということである。これが発展して、アンテナショップを出すとなると求められる課題も違うので、ここにふさわしい部会長と副会長を選任するというところにある。さらに、店を構えるとなると金融に詳しい経営者が部会長になっていく必要がある。

○重森委員

そうすると、末端のプロジェクト部会というのは、5 つとか 20 とか 30 とか、たくさんあるということか。

○教育長

そういうイメージである。

○重森委員

課題を整理していく上で数が減っていく可能性もあるということか。子どもたちが発展的な活動に移行していくと、末端の部活動がなくなるということもあるのか。

○教育長

ただ、新たにまた、あすくや子ども・若者相談窓口につながってくるメンバーが出てくると考えられる。新たなメンバーがいきなり発展的な活動に参加するのは難しいので、やはり子どもたちの興味、関心に基づく基礎的な部活動は必要であるとする。

【採 決】

近江八幡市子ども・若者起業支援等プロデュース協議会各プロジェクト部会要領の制定について

可決

◆議第20号 近江八幡市スポーツ推進審議会委員の委嘱につき承認を求めることについて

【事務局説明】…スポーツ課

【質問等】

○大更委員

充て職であったり団体からの推薦ということもあると思うが、女性の方がお一人だけということで、その辺はどう考えるか。

○スポーツ課

あくまで各団体さんからの推薦ではあるが、女性の参画を目指している旨、推薦をいただく際にも一文を添えさせていただいたが、結果的に推薦いただいたのが女性1名であったということである。本審議会委員に限らず、各種スポーツ推進員においても、引き続き女性の参画が高まるよう努めてまいりたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

【採 決】

近江八幡市スポーツ推進審議会委員の委嘱につき承認を求めることについて

承認

●協議事項

◎近江八幡図書館新システムの導入について

【事務局説明】…図書館

【意見等】

○西田委員

LINE 連携機能の導入というところで、LINE の画面で蔵書検索などのオンラインサービスが利用可能とあるが、これは蔵書検索をした時に、今現在その本が借りられるのか、借りられないのかまでわかるのか。それともこの本は近江八幡図書館にあるのか、安土図書館にあるのかがわかる程度なのか、その辺を教えていただきたい。

○図書館

LINE 画面で蔵書検索をすることによって、その本が近江八幡図書館にあるのか、安土図書館にあるのかがわかると同時に、予約件数についてもわかるようになっている。

○圓山委員

私はいつも市の LINE から図書館の本を検索して、借りられるかどうかを調べているが、この LINE 連携機能は、今現在の LINE とはまた別のシステムなのか。

○図書館

図書館のホームページから蔵書検索ができるようになっており、委員がおっしゃっているのは、スマホからご利用いただいているということかと思う。

今の LINE は、休館日等のお知らせしかできないが、今後は蔵書検索ができたり、予約のお知らせができるようになるということである。

○圓山委員

今 LINE で、この本を読みたいというのを検索すると、図書館にあって、貸し出し中だという風に LINE で出てくるが、それとはまた別の機能なのか。

○図書館

内容としては同じである。もう少しスピーディーになったり、わかりやすく画面が見られるということである。

○大更委員

IC タグを導入することによって、自動貸出や自動返却ができるようになり、蔵

書点検や返ってこない本の確認もスピーディーに行うことができると聞いている。司書さんがサービスに専念できるということで、大変ありがたいと思っている。

○図書館

その通りである。加えて、近江八幡図書館には貴重本がたくさんある。一部デジタルアーカイブで紹介しており、昨年度は旧方式のカウントで件数をカウントすると 750,000 件のアクセスがあった。多くの方に貴重本を見ていただいているということであり、今後さらにこのサービスを整備し貴重資料を公開していきたいと考えている。そのためには、貴重本の紛失や盗難防止のためにもやはりタグ付けが必要であり、そうしたことも含め進めていきたい。

●報告事項

◎6月市議会定例会における質問に対する回答等について

【事務局説明】…教育総務課

【意見等】

○大更委員

6月議会では、再問も含めたくさんの質問が教育委員会、教育関係に対し提出された。議員さんも様々な立場でお話をされており、とても参考になると思うので、再度視聴して、自分なりにこういう考えや思いがあるのかと考えてみたいと思う。

◎データサイエンス入門クラブの創設について

【事務局説明】…学校教育課

【質問等】

○教育長

今年度は、年度途中からの創設であり、年間5回の講座を用意している。第1回目は八幡東中学校のコンピューター室で立ち上げの講義を行うが、滋賀大学データサイエンス学部の市川学部長にご来幡いただく予定である。また第5回目は、4回の講義を受けた生徒たちが彦根キャンパスで活動報告を行うこととなっているが、その折にも、市川学部長にご同席いただくというご配慮をいただいている。本日も市川学部長にご来幡いただき、市長とともに締結式に臨んでいただくということで、本事業は滋賀大学のデータサイエン

ス学部に絶大な支援をいただいている。

課題は、多くの生徒の方に入部いただけるように募集を行うことであり、そのために活動日は土曜日を中心に設定している。最終回の彦根キャンパスに行く打ち上げの講義は水曜日としており、本市において部活動が無い日に設定させていただいた。これは平日に野球部やバスケットボール等の部活動に入っておられる方についても、ぜひデータサイエンスクラブにも入っていただけるようにとの考えからである。

○重森委員

募集人数という話があったが、どのくらいの人数を見込まれるのか。

○学校教育課

現在のところ、20 名くらいを想定している。市立 4 中学校から 4 名ずつ、そして残りの方々はそれ以外の中学校から募集できたらと考えている。先日、市立中学校の校長にも募集に関してご協力いただけるようお願いをさせていただいた次第である。

○教育長

加えて、私立の近江兄弟社の学園長の方にも、ぜひ参加していただけるようお願いをしてきたところである。もちろん、本市にお住まいで他の市町、府県の私立の中学校に行っておられる方、本市在住の方であれば対象となるので、そうした方々にも入っていただければと思っている。

◎「令和 6 年度図書館の概要」について

【事務局説明】…図書館

【質問等】

○教育長

7 ページに、「近江八幡読書グループ連絡会 5 団体」とあるが、これはどういう団体なのか。

○図書館

近江八幡読書グループ連絡会は、50 年以上続く団体である。もとは近江八幡読書グループ連絡協議会という名前であったが、今ではグループも減り、5 つの読書グループが集まって連絡会を作っている。この 5 つの読書グループが月 1 回、自分たちで読書会の活動を行いながら、連絡会として合同読書会や文学散歩を実施されているという状況である。

○教育長

それぞれの読書会は会員だけで活動されているのか。あるいは読書グループが中心となって、市民にも呼びかけて、大きな読書会を主催されているのか。

○図書館

それぞれの読書会は会員の中で実施されているが、年に一度、読書グループ連絡会が主催し、市民に呼びかけて講演会や近江八幡の郷土の集会等を開催されている。

○教育長

それぞれの読書グループは、主に図書館で活動されているのか。

○図書館

全てのグループが図書館で活動されている。

○教育長

図書館で活動されるのに、かち合ったりして場所がないということは起こらないのか。それぞれのグループは十分に活動できているのか。

○図書館

月一回なので、かち合う事はあまりない。かち合ったとしても、本のリサイクルを行っているスペースを利用されたり、譲り合いながら活動されている。

○教育長

グループの会員の方はこういった年齢層なのか。

○図書館

大体 40 代から 80 代くらいまでである。

◎桐原体育館の休止延長及び劣化度等調査にかかる利用者への通知について

【事務局説明】 …スポーツ課

【質問等】

○西田委員

来年 2 月まで延期されるのはこういった理由からか。

○スポーツ課

11 月末には国スポ・障スポがほぼ終了し、そこから備品を運び出すという目算であったが、次の開催県への輸送まで時間がかかるということを県の方から聞いており、それが理由である。

○教育長

次の輸送まで時間がかかるというのは、次の開催県が受け入れる場所を探したり準備するのに時間がかかるという意味か。

○スポーツ課

その通りである。

8. その他

◎第 1 回総合教育会議の振り返り意見交換

【意見交換等】

○教育長

去る 6 月 9 日に第 1 回総合教育会議が開催され、第 3 期近江八幡市教育大綱について委員の皆様にご議論をいただいたところだが、本日はその振り返りをさせていただき、委員の皆様のお考えになられていることがあれば、ざっくばらんに教えていただけたらと思う。振り返りなので、感じていただいたことや、「もう少しこういう点について議論を深めたい」と感じておられること等があれば教えていただきたいし、意見交換ができればと思う。

○大更委員

できたら総合教育会議が行われる前に、教育委員会として「どのような方向で意見しようか」ということを一度協議してみてもどうか。総合教育会議で各々が好きに喋っているだけでいいのかどうか。

例えば、市長への要望も「教育委員会として、こういう内容・方針で進めていきたい」というようなことがあるのであれば、皆が一つの方向を向いて、「賛成の立場で話をします」とか、少し事前に協議しておいたらどうかと思った。

○教育長

ただいま大更委員からそのようなお話をいただいたが、これについて委員の皆様からご意見あればお願いしたい。

○大更委員

実は、私が総合教育会議で話をしていたときに、重森委員から「全ての子どもたちに」という話があって、私はどちらかというと「小学校や中学校の現場だけ」の話で進めていたが、重森委員の話を聞いて「なるほどな」と思った。4人でも「なるほど、そういう立場でも話をしていただけるのだな」ということが分かったのだが、事前に話が少しあれば、こちらとしてもいろいろな、もう少し広い意味で話をさせていただけたかなと思った。

○西田委員

大更委員のおっしゃるように、事前に何か方向性というか、「教育委員会としては、こう考えています」というものが何か一つある方が、話としてはまとまりやすいと思う。どうしても、委員がそれぞれの視点で話をしてしまうと、まとまりにくい。「結局何の話であったのか」みたいなことにもなりかねないので、総合教育会議以降の進捗という部分等を考えると、何かしらの方向性のある程度決めて話をしていく方が、その後の進捗、物事を進めるに当たっては良いのかなと思うので、事前の協議には大賛成である。

○重森委員

大更委員にそう思って聞いていただいていたということを嬉しく思った。

スケジュールについて、総合教育会議の開催の前に「今の大纲に対してどう思っているか」という意見があれば、それを踏まえてどうしていくべきなのかが分かるのだが、おおよそ終わって、夏にアンケートを取っていくということで、もう少し早く、今はまだ途中だが「子どもも含めて、どう考えているのか」が分かると、より深められるのではないかなと思った。

ただ、アンケート調査やいろいろなことをするには時間も手間もかかるので、そうならざるを得ないという思いはありつつも、何か自分の思いを固める前にそういうものがあつたらいいなという思いをしながら参加させていただいていた。

○教育長

今の重森委員がおっしゃったのは、総合教育会議全体の進め方で、一般の方、子ども、保護者、教員、そういったところのアンケート調査を早めにした方が良いという話であった。

○圓山委員

お尋ねしたいのだが、社会の課題でもある少子化で、近江八幡市の若者の流出率というのは、どれぐらいなのか教えていただきたい。

○教育長

それは、本市の中学校を卒業して、高校へ行って、大学へ行って、もう二度と本市に帰ってこない割合であるとか、そのあたりのことか。

○圓山委員

はい。

○教育長

なかなか難しいかもしれない。

どのような方法で把握できるのか、少し調べてみる。今は、そのようなデータを持ち合わせていないので今日は無理だが、そもそもそういうデータがあるのかどうかも含めて、調べてみる。

もしそれがあれば、どのようなことをお考えか。

○圓山委員

近江八幡市に、ふるさとに愛着を持つというか、近江八幡市を良くしようと思って戻ってきてくれる子どもが、どれだけおられるのかと思ってお尋ねした。

○教育長

おそらく教育大綱の目指すところを数値化できるのか、達成率が図れるのかということかと思う。

○西田委員

圓山委員のおっしゃるのは、費用対効果のような部分を感じる。

○大更委員

県の話でずいぶん前からあったのだが、学力学習状況調査が優れていて、せっかく自分たちの県で、子どもたちが優秀な力をつけて、「さあ、自分たちの県内の事務所で働いて欲しい、活躍してほしい」と思ったのに、たくさん出ていってしまうというようなことで、県知事も教育長もとても残念がっておられた。そうになってしまうともったいないなという思いはある。

○教育長

教育大綱を目指すところをどのように実現するかということにも通じるところ。そういうものを評価できる指標があれば良いと思うが、おそらく正確にそのようなものを計った資料がないように思う。見てはみるが、難しいかと思う。

また、総合教育会議を開く前に、教育委員会としてある程度方向性を共有してはどうかというご意見を頂戴したが、そういう方向で調整をしていきたいと思う。

もう一つ思うのは、そういう大きな方向性は共有させていただくとしても、総合教育会議の場というのは「教育委員会 対 市長」ということではないと思うので、それぞれの委員さんがお持ちの見識を、その場で独自に表明いただくということも非常に大事だと思っている。そうでないと「教育委員会 対 市長部局」のディベートの会みたいになってしまうので、そうはならない方が良い。しかしながら、おっしゃっていただいたように、教育委員会として事前に大きな方向性を共有させていただくような場を持たせていただきたいと思う。そういう思いも込めて、今回このような話合いの場は3回目ぐらいになると思うが、その中でこういうご意見を頂戴したので、ぜひ尊重させていただいて、そのような方向で進めさせていただこうと思う。

貴重なご意見を頂戴し感謝する。今後も皆様のご意見をいただきながら進めてまいりたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

9. 閉会

教育長が定例会の閉会を宣言